



# ジェントルハート通信

No. 44 夏号

発行日 2014.8.30

『いじめゼロキャンペーン』 理事 (WAVE出版代表取締役社長) 玉越直人

発行  
NPO法人  
ジェントルハートプロジェクト

事務局  
〒210-0843  
川崎市川崎区小田栄1-8-3 青山  
Tel & Fax  
045-845-3620 (小森)  
URL <http://npo-ghp.or.jp>

会員登録及びカンパは随時受付中  
正会員 1口 2,000円  
賛助会員 1口 1,000円  
郵便振替  
口座番号:00200-8-111295  
口座名義:ジェントルハートプロジェクト  
振込用紙に会員の種別を明記下さい



## 目次:

巻頭コラム	P 1
傍観しないという覚悟	P 2
指導死と児童虐待	P 3
いじめゼロキャンペーン 関連記事	P 4-5
活動の報告と今後の予定	P 6-7
橋がかかる	P 8

ジェントルハート通信第44号  
定価100円 (会員は無料)

多くの子どもたちがいじめを苦にして自ら命を絶つ、世界でも例をみない国、ニッポン。

「だれか、このいじめをとめて!」「生きたい、でも死ぬしかない。」

私には、いじめ自殺報道を目にするたび、天国に向かう子どもたちが、大人に向けて発する悲痛な叫びが聞こえてきます。

夢と希望に満ちて大好きな学校に通っていた、何の罪もない子どもたちが、ある日突然、いじめにあい、心を傷つけられ、やがて生きる力さえ奪われ、独り自死するのです。

私は、「いじめ自殺」は、われわれ大人が作り出した「一人一人の異なる存在を大切にしない、人に優しい心を失った」現代社会の闇が、子どもの心を深くむしばみ、いじめで人を傷つけることでしか自分の存在が保てない、不幸な子を生んだ結果の悲劇だと思います。

いじめは、子どもたちだけの問題ではなく、実は大人すべての問題だったのです。

大人たちが、いじめをしてしまう子の心の闇に寄り添い、解決策を見つけてあげることで、この悲劇の連鎖はストップできるのです。いじめの子がいなければ、いじめられて死ぬ子はこの世に存在しませんから。

私が社長を務めるWAVE出版は、2002年の『優しい心が一番大切だよ』の刊行以来、いじめ自殺ゼロの実現に向けた書籍を多数出版し続けてきましたが、残念ながら、事態は悪化するばかりです。

そこで、この悲劇の源を断つべく、

当NPOの理事であり、ひとり娘をいじめ自殺で失った遺族である小森美登里さんの著『遺書 わたしが15歳でいじめ自殺した理由』の小社からの刊行を機に、全国の書店さまの賛同・支援を受け、「子どものいじめ自殺ゼロを実現するための全国書店キャンペーン」を8月25日から一斉実施することにしました。

また、多くの著名人の方々から賛同メッセージもいただきました。以下、一部紹介します。

瀬戸内寂聴さま (尼僧・作家)  
「人は人を殺してはいけないし、殺されてもいけない。命を大切にしましょう」。

香山リカさま (精神科医) 「いじめのために、いじめられるために生まれてきたんじゃない。あなたが生まれた本当の意味を、いっしょにさがしましょう」。

堀田力さま (元検事・さわやか福祉財団理事長) 「出口のみえない闇の中でひとり苦しんでいる子どもたちを救うのは、大人の責任です」。

千葉景子さま (弁護士・元法務大臣) 「いじめられているあなたは何も悪くない。いじめているあなたは力を抜いてごらん!ほら、ひとりじゃない」。

高橋みなみさま (AKB48)  
「ストップ、いじめ自殺。私はいじめ自殺ゼロ・キャンペーンを応援します」

こうした応援も受けながら、かけがえのない子どもたちのいじめ自殺ゼロ実現のために、これからも全力を注いで書籍の出版に邁進していきたいと思っております。

## ◆ いじめを傍観しないという覚悟◆

私の次男『真矢（まさや）』（当時中学3年生）は2010年6月、「友人をいじめから護れなかった」という遺書を遺し、自らの命を絶ちました。

それは、真矢が中学2年の秋ごろのことです。小学校時代から仲の良かった友人が、加害生徒4人からのいじめに遭っていたのを真矢が止めに入ったところ、今度は自分自身がいじめのターゲットになってしまったのです。

3年生になってからは、クラス替えで4人の加害生徒もばらばらになり、真矢へのいじめはほとんど無くなったものの、友人や他の生徒に対するいじめは繰り返し続いていました。当時の真矢の立ち位置は、直接的な被害者ではなく、周囲でその光景を目撃していた生徒の一人でした。しかし、彼らのいじめに対し見てみぬ振りが出来なかった真矢は、自身と友人をいじめていた4人の加害生徒を遺書に実名で挙げ、自らの命と引き替えに学校内のいじめを告発したものです。

先日、愛知県豊橋市の公立小学校3年の女子児童が、いじめられた同級生をかばったところ、逆にいじめられ暴行を受けるという事件が起きました。

豊橋市教育委員会によると、事件が起こったのは本年6月3日。クラスの中で4月以降、1人の女の子が複数の男子生徒から、砂をかけられたり、悪口を言われるなどのいじめを受けていたそうです。それを見かねた女子児童が「いじめなら私を代わりにいじめて」と言っていじめを止めに入ったところ、加害生徒たちは「いじめてもいいんだな」と女子児童に対して飛び蹴りなどの暴行を加え、頭部打撲など一週間の怪我を負わせてしまいました。女子児童はその後、怪我と精神的なショックで、学校を三週間休まざるをえなくなるダメージを負ったということです。

先日、私はこの事件について、産経新聞よりコメントを求められました。

私は、今回の事件を、起こるべくして起こった事件だと思えてなりません。日ごろから「いじめを見てもみぬ振りするのは、いじているのと同じことだ」と教えられた子どもが、必死の覚悟で仲裁に入ろうとするのは当たり前

です。教師や周囲の大人は、子どもたちがいじめを傍観することを許さないだけでなく、自分たちはいじめの解決方法も知らず、そして解決に動こうともせず、ただ様子を見ているだけ。そんな大人の無責任な行為が、子どもたちを更に追い詰めていることにさえ気付いていないのです。本当の傍観者とは我々のような周囲の大人です。大人がいじめを傍観するから、子どもたちは何とか自分たちの力で解決しようと、更に追い込まれてしまうのです。いじめは犯罪です。そんな犯罪行為に対し、子どもに「立ち向かえ」というのは、私は間違いだと思うのです。

いじめをやめさせようと止めに入って、自ら命を絶った真矢。そして大怪我をしたこの女子児童。私は、彼らの行為を決して「美談」で済まさないで頂きたいと思っています。彼らの勇気ある行為は、間違いではないと思います。しかし、彼らより先に私たち大人が真剣に動いていれば、彼らをここまで追い詰めることは無かったはずで。

大人が犯罪を警察に通報するように、子どもがいじめを大人に通報しやすくする環境を作ることが大切です。子どもたちには、いじめの告発は「チクリ（告げ口）」ではなく、「通報」という正当な行為なんだと、分かって欲しいと思っています。

そして、子どもたちからいじめの「通報」を受けた私たち大人は、子どもたちの大切な命を守るために、全力でいじめを止めるべくあらゆる行動を起こす覚悟が必要です。



◆ 『指導死』と児童虐待◆

「生徒指導による子どもの自殺「指導死」を社会問題化するために情報発信を続けていると、担任などからの不適切な指導によって、不登校やPTSDなどの被害をお子さんが受けたと相談を受けることが増えてきています。

2014年5月17日に「指導死」親の会で開催した「指導死」シンポジウム(東京・浜松町 人権ライブラリ)では、高校時代に部活動の顧問から暴力や言葉による執拗な圧力を受けPTSDを発症した男性が登壇し、自らの体験を語ってくれました。その会場には、やはり高校時代に教師からの不当な指導を受け、PTSDとなった女性も参加していました。

当法人理事で教育評論家でもある武田さち子さんによれば、1952年から2013年までの間に「指導死」と思われる自殺が75件(うち7件は未遂)発生しています。その背後には、自殺にまでは追い込まれないものの、学校に行けなくなったり、強い人間不信に陥ったり、あるいは精神的な病に追い込まれるケースも数多く存在するものと思われます。

文部科学省の定義では、指導とは「一人一人の児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して行われる教育活動のことです。すなわち、生徒指導は、すべての児童生徒のそれぞれの人格のよりよき発達を目指すとともに、学校生活がすべての児童生徒にとって有意義で興味深く、充実したものになることを目指しています。(文部科学省 生徒指導提要 第1章第1節 平成22年4月2日)」とされています。

生徒指導がこの目的に沿って正しく行われるのな

ら、それをきっかけに子どもが自殺したり、不登校になったりすることは考えられないことです。しかし現実には、大きく異なっています。

現在、さいたま地裁では、小学2年生時に担任の暴言や暴力を受けて不登校・PTSDとなったとして、保護者が、さいたま市と校長、教頭、担任らを訴える裁判が進行しています。今後、こうした裁判は増えていくものと思われます。なぜなら、指導による子どもの自殺が社会問題化することで、被害者が声を上げるケースが増えているからです。

下村博文文科大臣は「指導死というのは教師のいじめ。いじめ防止対策推進法は、指導死にも相当な波及効果はある」(「宝島」6月号)と発言しています。「指導死」事案を見ていくと、そこで行われた「指導」が「いじめ」ととらえた方が適切なものもありますが、その一方で、教育そのものに内在する暴力性にも目を向けていかなければならないと思います。「指導死」事案の中には、違法性を問にくい案件も散見され、しかし、子どもたちは確実に死へと追いやられているからです。「校内児童虐待」を表現した方が適切な事案も見られます。

こうした問題も含め、「指導死」全般について、東京・竹橋の毎日新聞本社内の「毎日メディアカフェ」で話す機会を得ました。定員は30名。無料ですが事前申し込みが必要です。詳しくは、Webサイトでご確認ください。http://mainichimediacafe.jp

(おいでの際は、会場の案内を事前にご確認ください)

以下、「毎日メディアカフェ」Webサイトのイベント紹介を引用します。

『指導死』を知る、防ぐ

児童や生徒が、学校の生徒指導をきっかけに自殺することがある。なぜ、子どもたちは、教員の叱責や呼び出しで、死を選ぶほど追い詰められてしまうのか。この疑問は、遺族たちが強く感じるものでもある。いじめ自殺以上に表面化しにくいのが、遺族たちはこうした自殺を「指導死」と名付け、つながり始めた。遺族の一人で、現在は「『指導死』親の会」代表世話人を務める大貫隆志さんに、大阪社会部、亀田早苗記者が指導死の実態や背景を聞く。

■ 開催概要 開場 18:00 開演 18:30 終演 20:00 人数:30名

■ 登壇者

・大貫 隆志 (おおぬき・たかし)

「指導死」親の会 代表世話人、NPO法人ジェントルハートプロジェクト理事。2000年9月、長時間の生徒指導を受けた翌日、次男大貫陵平が自殺。生徒指導による子どもの自殺を「指導死」と名付け、講演や執筆を通じて問題提起を行う。

・亀田 早苗 (かめだ・さなえ)

1991年に入社、大阪本社社会部、東京本社生活報道センター、高松支局次長などを務める。2年目に松山支局でいじめ自殺を取材。以来、学校側の隠ぺいなどで遺族が2次被害に遭う状況を変えたいと考え続けている。

■ 会場

毎日メディアカフェ 東京都千代田区一ツ橋1-1-1

毎日新聞東京本社1階 地下鉄東西線「竹橋」駅下車パレスサイド出口より約3分

参加は無料ですが、事前予約が必要です。https://mainichimediacafe.jp/eventcal/list/?d=20140904

## 『なくならないいじめ問題 大人は今、何をすべきか？』

理事 小森美登里

子どもたちが今日もどこかで自ら命を絶っています。心の傷を深め、生きる気力を奪われ、解決の糸口が見つからないまま、その絶望感から死へと追い詰められているのです。私たち大人が、もしこのまま解決策を見出すことが出来ないとしたら、子どもたちはこれからも死に続けるでしょう。この現実を知り、一刻も早く解決することが大人の責任です。

親が子どもの幸せを願う時、欠かせないのは、自分の子どもの周りにはいる子どもたちが幸せであることです。

なぜなら、人は人との関わりの中で幸せと苦しみを感じるから、一人だけの幸せはあり得ないからです。

これからの社会を引き継ぐ子どもたちが、もし自己中心的な心を持ち、人を傷付ける事が快感であったなら、今後どのような社会になるでしょう。どこかで生まれた子どもの苦しみは、多くの大人が関わり解決しなければならぬ大人すべての問題だったのです。

いじめは、子ども社会だけの問題ではありませんでした。

「イジメはどうせなくならない」と大人が言った時、苦しんでいる子ども達のわずかな希望は奪われ、命のともし火は奪われるかも知れません。「イジメゼロ」これは大人の覚悟であり、子どもたちへの宣言です！

「子どものいじめ自殺ゼロキャンペーン」によせて

## 『遺書』

～私が15歳でいじめ自殺をした理由～

新刊のご紹介

子どもが読んだ時「大人ってそうなんだよね」と共感し、大人が読んだ時、「ああそうだったのか。」と新たな気付きになる、そんな本を書きたいと思っていました。

読み終わった後、大人が子どもの声を聞いたり、大人が気付いた事を子ども達に伝えたり。

一緒にいじめについて話し合うきっかけを生む事が出来れば幸いです。

教室や家庭で、大人が読み聞かせなどして頂く事も出来ます。

ルビを大変多くして、小学生にも読めるようにしました。

子どもから大人まで、アッと言う間に読める本です。

この本は私が娘の香澄から受け取ったメッセージを基本として書きましたが、実際には、香澄だけでなく、たくさんの方の天国にいる子どもたちが多くの気付きのきっかけを私たち大人に投げかけています。

ですから、ほんの一部ですが私が活動の中で知った、いじめに苦しんでいた子どもたちの声も引用しました。

それらをまとめ、私が香澄の口を借り、私なりの表現として、「遺言」としました。

子どもたちの心と命を救う糸口を見つけるため、天国の声に耳を傾けてください。

当事者の声を聞く、それを基本とする事を、今生きている私達は忘れてはならないはずです。



悲劇を繰り返さないために

教室で、家で、大人と子どもと一緒に  
いじめについて考えるきっかけになる本

ISBN-78-4-87290-711-7

定価(本体600円+税)

※緊急発売という事情もあり、一般書店及びアマゾンでの取り扱い開始には少々時間を要しております。  
(アマゾンでの扱いは9月29日以降になります)



# いじめ自殺を ゼロに!

**いじめのない社会を作るために、私たちと一緒に考えましょう!**



「いじめるために、いじめられるために  
生まれてきたんじゃない。あなたが生まれた  
本当の意味を、いっしょにさがしましょう」

**香山リカさん**(精神科医、立教大学教授)



「人は人を 殺してはいけないし  
殺されてもいいけない 命を大切にしましょう」

**瀬戸内寂聴さん**(尼僧、作家)



「ストップ、いじめ自殺。私はいじめ自殺  
ゼロ・キャンペーンを応援します」

**高橋みなみさん**(タレント、AKB48)



「出口の見えない闇の中でひとり苦しんでいる  
子どもたちを救うのは、大人の責任です!」

**堀田力さん**(元理事、公益財団法人さわやか福祉財団会長)



「いじめられているあなたは何も悪くない。  
いじているあなたは力を抜いてごらん!  
ほら一人じゃない」

**千葉景子さん**(弁護士、元法務大臣)

**私たちも“子どものいじめ自殺ゼロ”キャンペーンに賛同します** (五十名)

大谷昭宏さん(ジャーナリスト)、尾木直樹さん(教育評論家)、鴻上尚史さん(作家・演出家)、  
佐藤可士和さん(クリエイティブディレクター)、長州小力さん(タレント)、デヴィ スカルノさん(タレント)、  
寺脇研さん(映画プロデューサー)、野田佳彦さん(衆議院議員、元内閣総理大臣)、宮本延春さん(「オール1先生」作家)

## すべての子どもの命を守る

**これは大人の覚悟であり、子どもたちへの宣言です!**

小社は、2002年の「優しい心が一番大切だよ」刊行以来、いじめ撲滅に向けた書籍を多数出版し続け、

全国の児童・父兄・教師の方々から大きな反響を得てきました。そこで本キャンペーンを機に、  
かけがえのない子どもたちのいじめ自殺ゼロ実現のための書籍出版に全力を注ぐことを誓います。

2014年8月25日 WAVE出版 代表取締役社長 玉越直人

# ◆ 活動のご報告と今後の予定 ◆

NPO法人 ジェントルハートプロジェクト

日付	主催者	都道府県	都市	人数
2014/7/10	野田市立第一中学校	千葉	野田	710
2014/7/11	野田市立第二中学校	千葉	野田	350
2014/7/11	士幌町教育委員会いじめ防止講演会	北海道	河東郡	220
2014/7/12	野田市立岩名中学校	千葉	野田	438
2014/7/12	世田谷区立北沢小学校PTA	東京	世田谷	400
2014/7/12	横須賀市ボランティア連絡協議会	神奈川	横須賀	150
2014/7/14	野田市立川間小学校	千葉	野田	120
2014/7/15	新潟市立西川中学校	新潟	新潟	400
2014/7/15	千葉県立船橋北高等学校	千葉	船橋	700
2014/7/16	法政大学中高等学校教員研修	東京	三鷹	50
2014/7/18	松阪市立西中学校	三重	松阪	600
2014/7/24	岡山市教育委員会PTA人権研修	岡山	岡山	65
2014/7/30	川西市教育委員会	兵庫	川西	600
2014/8/1	箕面市人権教育研究会	大阪	箕面	100
2014/8/1	藤嶺学園藤沢中学校教員研修	神奈川	藤沢	65
2014/8/4	厚木市教育委員会教員研修	神奈川	厚木	150
2014/8/5	多治見市人権課「平成26年度子ども権利セミナー」	岐阜	多治見	100
2014/8/6	東大阪市人権教育研究集会	大阪	東大阪	2,000
2014/8/21	金光学園中学高等学校教員研修	岡山	浅口	100
2014/8/22	愛川町教育委員会	神奈川	愛甲郡	50
2014/8/22	八街市教育委員会教育研究会	千葉	八街	440
2014/8/23	日本学校教育相談学会宮城県支部	宮城	宮城郡	50
2014/8/26	川崎市立菅小・中学校職員研修	神奈川	川崎	60
2014/8/28	神奈川県立金沢養護学校	神奈川	横浜	160
2014/8/29	佐野市富士見町集会所まなびや会	栃木	佐野	40
2014/9/4	川崎市立千代が丘小学校	神奈川	川崎	300
2014/9/6	藤嶺学園藤沢中学校	神奈川	藤沢	150
2014/9/10	五泉市立五泉北中学校	新潟	五泉	400
2014/9/11	関川村立関川中学校	新潟	岩船郡	250
2014/9/12	宮崎県県民人権講座	宮崎	宮崎	70
2014/9/13	瑞穂町立瑞穂中学校	東京	西多摩	500
2014/9/17	山梨県立白根高等学校	山梨	南アルプス	630
2014/9/19	山武社会教育委員連絡協議会	千葉	山武郡	150
2014/9/19	成田市立中台小学校	千葉	成田	130
2014/9/22	霧島市立日当山中学校	鹿児島	霧島	413
2014/9/22	霧島市立上小川小学校	鹿児島	霧島	110
2014/9/24	豊島学園昭和鉄道高等学校	東京	豊島	750
2014/9/25	川崎市立三田小学校	神奈川	川崎	200
2014/9/26	ワーカーズコープ代表者会議	東京	太田	700
2014/9/26	大田区立嶺町小学校	東京	太田	280
2014/9/27	新見市立哲多中学校	岡山	新見	130
2014/9/27	狛江市立狛江第三中学校	東京	狛江	340
2014/10/1	川越少年刑務所	埼玉	川越	500
2014/10/7	下都賀地域アクションミーティング	栃木	栃木	200
2014/10/9	下関市立神王小学校	山口	下関	

日付	主催者	都道府県	都市	人数
2014/10/10	周防大島町立大島中学校	山口	山口	110
2014/10/14	三条市立大島中学校	新潟	三条	95
2014/10/15	泉北地区人権教育講演会	大阪	泉	100
2014/10/21	美咲町立柵原西小学校	岡山	美咲	300
2014/10/23	山口市立鑄銭司小学校	山口	山口	150
2014/10/24	横浜弁護士会	神奈川	横浜	20
2014/10/31	津山市立勝加茂小学校	岡山	津山	30
2014/11/1	倉敷市立水島中学校	岡山	倉敷	300
2014/11/3	一橋大学 一橋祭	東京	国立	
2014/11/4	南魚沼市立城内中学校	新潟	南魚沼	260
2014/11/5	岡山少年院	岡山	岡山	65
2014/11/5	羽咋市立羽咋中学校	石川	羽咋	
2014/11/5	上越市立東本町小学校「いじめを考える集い」(教員向)	新潟	上越	200
2014/11/6	上越市立東本町小学校「いじめを考える集い」	新潟	上越	130
2014/11/6	上越市立直江津東中学校	新潟	上越	220
2014/11/8	江東区青少年対策砂町地区委員会	東京	江東区	150
2014/11/10	大宮開成高等学校	埼玉	さいたま	600
2014/11/11	私立金沢高等学校	石川	金沢	1,260
2014/11/12	周南市立菊川中学校	山口	周南	240
2014/11/13	西宮市教育委員会いじめ対応ネットワーク会議	兵庫	西宮	100
2014/11/15	山陽小野田市立高千帆中学校	山口	山陽小野田	760
2014/11/16	周南市立秋月中学校	山口	周南	260
2014/11/18	玉野市立日比小学校	岡山	玉野	150
2014/11/21	山口県立岩国総合高等学校	山口	岩国	300
2014/11/22	愛西市立佐織西中学校	愛知	愛西	560
2014/11/25	山口県立下関南高等学校	山口	下関	570
2014/11/28	南房総教育事務所人権研修会	千葉	木更津	300
2014/11/28	小浜市立小浜第二中学校	福井	小浜	600
2014/11/29	国分寺市立第五中学校	東京	国分寺	530
2014/11/29	桜井市人権文化を育てる市民のつどい	奈良	桜井	200
2017/12/2	柏市立大津ヶ丘中学校	千葉	柏	550
2014/12/3	藤沢市教育委員会	神奈川	藤沢	50
2014/12/4	瀬戸内市立牛窓中学校	岡山	瀬戸内	950
2014/12/5	総社市立総社東中学校	岡山	総社	170
2014/12/6	高知県『いじめ防止子どもサミット』	高知県	高知	410
2014/12/8	近江中学校区人権講演会	三重	松阪	80
2014/12/9	松阪市立近江中学校	三重	松阪	100
2014/12/10	横浜市立中田小学校	神奈川	横浜	820
2014/12/11	横浜市立日野南小学校	神奈川	横浜	310
2014/12/12	柏市立高柳中学校	千葉	柏	660
2014/12/16	倉敷市立玉島北中学校	岡山	倉敷	710
2015/2/3	江東区教委放課後支援課	東京	江東区	30
2015/2/18	光泉高等学校	滋賀	草津	370
2015/4/15	藤嶺学園藤沢中学校	神奈川	藤沢	150
2015/4/15	滋賀県立野洲高等学校	滋賀	野洲	610
2015/4/16	宇都宮文星女子高等学校	栃木	宇都宮	340



## ◇ 橋がかかる ◇ ひととひととの出会い、そこにかかる橋

ここは毎回ジェントルハートプロジェクトに関わる方々の思いなどを自由にお書き頂くコーナーです。今回は鳥取県境港市立第一中学校校長の木村一也先生にお願いしました。

『いじめと向かい合い、すべての生徒に住みよい  
学校づくりのために』  
境港市立第一中学校 校長 木村一也

## 1 はじめに

本校は鳥取県境港市(人口3万6千人)にある3中学校のうちの一つであり、全校生徒数約300人ほどの、県西部では中規模の中学校である。校区は商業施設と住宅地が混在する市内随一の繁華街をかかえながらも、海と緑に囲まれた公園もあり、大都市に比べると豊かな環境と言える。

しかし、本校が抱える問題は全国と同じで、携帯・スマホによる中傷やなりすましメール事象、学級内や部活動内での人間関係トラブルによる「いじめ」事案に対して、生徒指導上奔走している状況である。

もちろん「心の教育」として、各学年とも力をあげて道徳の授業に取り組み、また、生きること・夢をもつことの大切さを重要視し、人間関係の構築と修復する力を身につけるために「WYSH教育」を総合的な学習の根幹に据えて取り組んで来ている。

それでも、いじめは確かに存在し、そのいじめにより不登校になってしまった生徒もあり、我々教職員一同いじめ根絶に向け試行錯誤しているところに「NPO法人ジェントルハートプロジェクト」の活動を知るところとなり、薫にもすすがる思いで、当法人の理事である小森美登里さんに講演をお願いした次第である。

## 2 小森さんを招聘して

上述したように、本校では7月1日に小森美登里さんをお招きして、「やさしい心が一番だよ」と題して講演をしていただいた。本校がこの講演会を依頼した趣旨は、本校生徒と教職員共通のめあてである『みんなに住みよい学校』という点から、他者への思いやりとは何かを考え、悪口や仲間外しを含むいじめ問題を取り上げ、自ら真剣に自分の心と見つめ合うというものであった。

小森さんは、ご自分の経験からいじめられる側、いじめる側の両方に視点をあてて語られ、子どもたちだけでなく、私たち大人の「心の内側を見つめ治す」ための、とても有意義な機会となったのは大変大きかった。

## 3 本校でのいじめ防止対策

国が策定した「いじめ防止対策推進法」を受け、本校も「境港市立第一中学校におけるいじめ防止基本方針」を作成し、教職員全員の共通理解の上、取り組んできた。(以下一部要約)

## (1)いじめのない学校づくりのために

- ① いじめ防止基本方針の策定(教師の指針)
- ② 仲間づくり(効果的な学活・自治的な生徒会活動)
- ③ 心の教育の充実(道徳教育の推進・他)
- ④ 生徒指導の充実
- ⑤ 生徒・保護者・教職員に向けた講演会の開催

## (2)いじめの早期発見のために

- ① 生活アンケートの実施
- ② 教育相談の活性化
- ③ Hyper-QUの活用(学級での居心地度と事後のケアの把握)
- ④ 相談箱の設置(“いつでも”見守りの姿勢)
- ⑤ 教職員の情報共有と連携

## (3)いじめ防止ネットワークの構築のために

- ① 小中連携(学年始めの引き継ぎだけでなく、日頃からの連携)
- ② 関係諸機関との連携(SSW、SC、SS、警察【学校警察連絡制度】等との相談やアドバイス)
- ③ 家庭・地域との連携(学校公開日への招待、学校関係者評価委員会およびPTA役員会の場で課題の共有)

## 4 おわりに

このように、いじめ防止基本方針を作成し、全教職員がいじめは許さない・サインを見落とさない・チームで取り組む等、これまで本校では取り組んで来てはいるが、それでもいじめをなくすることはできないし、保護者からの訴えで初めて知ることができたという事例もある。つまり「学校には必ずいじめはある」との考えで日々アンテナを高くしておかないと大変な事態になりかねないのである。私たちは常日頃から「いじめ＝命」と認識し、すべての生徒が幸せに安全に、そして最高の中学校生活を送ることができるよう、努めていかなければならないと肝に銘じ、「一中生であることに誇りをもつ生徒を育てる」との意識を持ち、生徒を中心に据えた、一人一人の自己肯定感を育てる学校づくりの推進をする。

## ● そのために教職員が大切にしたいこと

- ① 上手にほめて認め、上手に叱ることができる
- ・良いことは積極的にほめて認め、改善すべきところは的確に指導
- ・教師と生徒の信頼関係、人間関係づくり
- ② 使命と情熱があり、共に励む教師集団であること
- ・教育環境を整備し、豊かさや美しさを背景にした教育活動の展開
- ③ 生徒の強い思いに共感し、寄り添い、魅力溢れる生き方である
- ・なんでも話せる、安心感がもてる教師
- ④ 家庭・地域と連携し、ともに働き信頼されている
- ・多くの方とかわりを持ち、広い見地を身に付けている

## ※ 3つの「いのち」を大切にできる生徒と教師

- ① 授業が「いのち」
- ② 自分の「いのち」
- ③ 他人の「いのち」

いじめの防止および早期発見には生徒自身の自己肯定感を高めることが必要不可欠であり、そのためには上記のように我々教職員が成すべきことをしっかりと成し、その上で家庭と地域の多大なる協力をいただきながら、周りの大人全員で見守り育てることが重要であると感じている。